



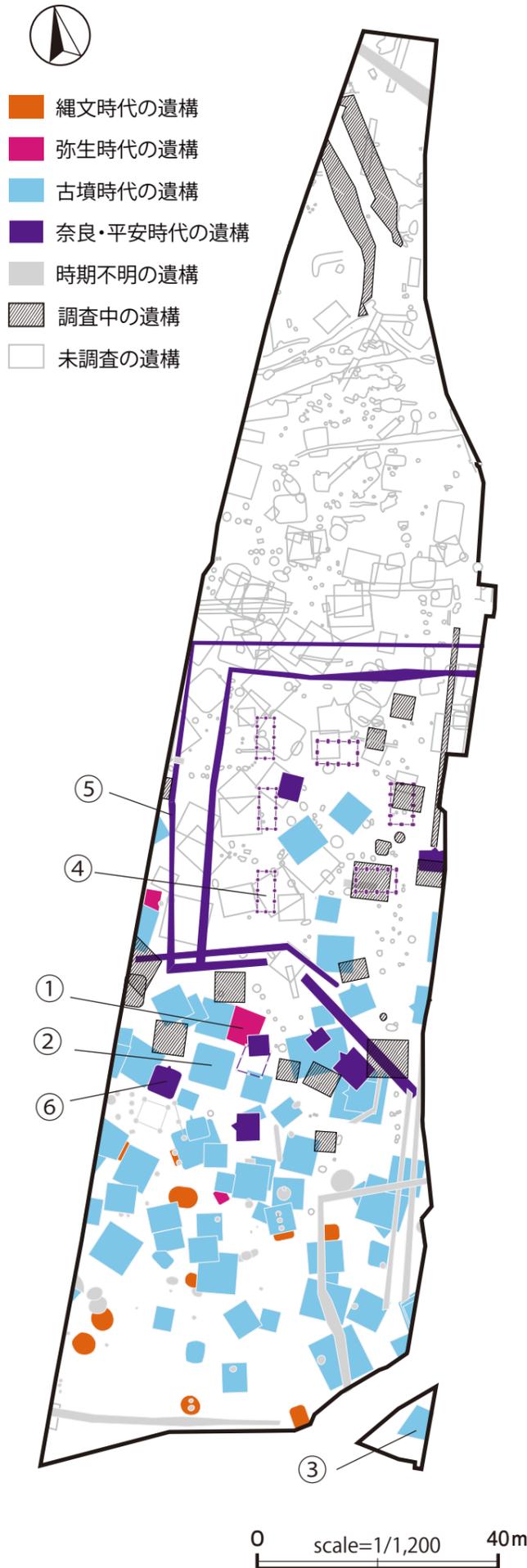
①第 76 号竪穴建物跡（弥生時代）
壺形土器の口縁部から頸部の破片が出土しました。ほかに土製の紡錘車が出土しています。



②第 50 号竪穴建物跡（古墳時代中期）
覆土中から、建物跡の床面近くに焼土や炭化物の広がりを見出しました。上屋が焼失したと考えられます。



③第 15 号竪穴建物跡（古墳時代後期）
土師器がまとまって出土しました。器種は、坏・甕・甑（こしき）・埴（かん）・壺などさまざまです。



遺構確認状況図

令和8年2月15日（日） 令和7年度発掘調査遺跡現地説明会資料

しもさかたなかだいいせき さかただいやまこふんぐん しもさかたあらくいせき

下坂田中台遺跡・坂田台山古墳群、下坂田荒句遺跡

所在地：土浦市下坂田 1453 番地付近

調査期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日

調査面積：〔下坂田中台遺跡・坂田台山古墳群〕14,406㎡ 〔下坂田荒句遺跡〕173㎡

委託者：茨城県土浦土木事務所

調査原因：一般県道小野土浦線バイパス道路整備事業

調査機関：公益財団法人茨城県教育財団（土浦事務所）

TEL: 029-225-6587 <https://www.ibaraki-maibun.org>



HP



X

遺跡の概要

当遺跡は、土浦市西部、桜川左岸の標高28～30mの台地縁辺部に位置します。周辺には、多くの遺跡が確認されており、桜川や霞ヶ浦の水源を利用して集落が営まれていたと考えられます。また、武者塚古墳群をはじめ、古墳が多い地域でもあります。

下坂田中台遺跡は、南北約350m、東西約250mの範囲に広がる面積約47,000㎡の遺跡です。今回は、この遺跡の東端部を調査しました。その結果、縄文時代から中近世にいたるまで、断続的な土地利用が明らかとなりました。



遺跡遠景（南から）

下坂田中台遺跡・坂田台山古墳群の概要

これまでに竪穴建物跡を160棟、掘立柱建物跡を8棟、溝跡28条、土坑400基を確認し、調査区の約半分を調査しました。

【縄文時代】

竪穴建物跡10棟、地点貝塚1か所を確認しました。出土遺物は、前期から後期（約6,500～3,200年前）の土器のほか、遺構外から板状土偶も出土しています。

【弥生時代】

後期（約1,900～1,700年前）の竪穴建物跡3棟を確認しました。壺や紡錘車などが出土しています。

【古墳時代】

前期から後期（約1,700～1,400年前）の竪穴建物跡60棟を確認しました。特に、中期（約1,600年前）の竪穴建物跡の多くは、炭化材や焼土が出土していることから、焼失したことがわかりました。また、中期の竪穴建物跡は、同時期で重なり合うものが多いことが当遺跡の特徴です。出土している土師器は、坏・碗・高坏・甕などがあり、特に坏・碗で赤彩したものが多くみられます。須恵器は、関西や東海地方で生産された坏、高坏、甕、甗（はそう）などが出土しています。

【奈良・平安時代】

奈良・平安時代（約1,300～800年前）にかけての特徴的な遺構は、調査区中央部で確認した溝跡と、これに画された内側の掘立柱建物跡6棟です。2条の溝跡からの出土遺物には時期差があり、内側が古く、外側が新しいと考えられます。同様に、掘立柱建物跡でも建て替えによる時期差を確認しました。整然と配置された掘立柱建物跡と区画溝から、公的な建物群の可能性が推測されます。これらの廃絶後は、竈をもつ竪穴建物跡を主とした集落となるようです。

【中世】

調査区南東端では、区画と考えられる溝跡を確認し、土師質土器小皿や陶器片などが出土しています。近傍にある県指定有形文化財「下坂田の板碑」との関連が推測されます。

下坂田荒句遺跡の概要

近世の土坑墓5基と溝跡1条を確認しました。土坑墓からは、人骨と寛永通宝が出土しました。

この資料は調査中の情報であり、最終的な結果ではありません。引用・掲載はご遠慮願います。



溝跡と掘立柱建物跡群の調査風景（南から）



④第3号掘立柱建物跡（東から）
南北に長い、梁行2間、桁行4間のす。同規模の建物跡が南北方向に等間隔で並んでいるのを確認しました。



⑤第10号溝跡に廃棄された土器（写真左）と墨書土器（写真右）
溝跡からは、多量の須恵器が出土しました。器種には、坏・高台付坏・盤（ばん）・蓋（ふた）・甕（かめ）などがあります。高台付坏には、外底面に「坂田厨カ」と墨書されたものも出土しています。



⑥第39号竪穴建物跡（平安時代）
土器片によって補強された竈（かまど）を確認しました。このような竈が複数見つっています。